



ひとにやさしいまちづくりのモデル事業

やさしさのまち「桜の郷」

やさしさのまち「桜の郷」

やさしさのまち「桜の郷」は、茨城県が事業主体となり、高齢者をはじめとするすべての人々が安心して、健康で生きがいを持って豊かな生活が送れるよう、医療・福祉・健康増進・生きがいづくり等の機能をそなえた「ひとにやさしいまちづくり」のモデルとして、茨城町において整備を進めているものです。

事業計画面積は約57haで、平成8年に用地買収に着手し、平成13年には「一団地の住宅施設」として都市計画決定されております。

地区内には、平成16年10月に開院した県央地域で唯一の第3次救急救命センターを有する水戸医療センター（旧国立水戸病院）をはじめ、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設といった福祉施設、健康生きがい施設やシルバーハウジング制度を導入した県営住宅、緑に囲まれ豊かさとうるおいを感じる戸建住宅等を配し、計画人口約3,200人のまちづくりを進めています。



【整備が進む「桜の郷」】



ユニバーサルデザインのまちづくり

まちづくりにあたっては、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、高齢者や子供、障害者を問わず、すべての人々が安心して快適に暮らせるように様々な工夫を施しています。

具体的には、視覚障害者や車いす使用者の協力による実証実験に基づいた、歩きやすく段差の少ない歩道やわかりやすい案内表示、バスの近接性を向上させた新型バス停の設置、ノンステップバスの導入など、すべての人にやさしいまちづくりに取り組んでいます。



県庁敷地内での実証実験の様子

- ・舗装材の材質デザイン決定
- ・車道との段差縮小



ノンステップバス





やさしさに満ちた住宅地「桜の郷みなみ台」

「桜の郷」では、まちづくりの一環として、県が主体となって住宅地の分譲を行っております。

「桜の郷みなみ台」という名称で平成16年1月から分譲を開始し、これまでに110画地のうち、109画地の申し込みを頂き、約60世帯のご家族が新しいまちでの生活をスタートさせております

(平成18年9月末現在)

【コモンガーデンのある生活】

「桜の郷みなみ台」の最大の特徴は、コモンガーデン(みんなの庭)と呼ばれる緑地を配置していることです。コモンガーデンは各宅地に接しており、子供の遊び場や近所同士のふれあいの場となっております。日照にも配慮したゆとりとうるおいのある住宅地になっています。



【安全なまち】

誰もが快適に暮らせるよう、道路にも工夫を施しています。道路は勾配を抑え(5%以下)、線形を curve、フォルトと呼ばれる植栽柵を設置し、舗装の一部にインターロッキングを用いるなど、景観に配慮するとともに自動車のスピード抑制に努め、歩行者の安全を確保しています。



【美しい街並み】

景観に配慮して、電線類を緑地内に埋設する簡易地中化方式を採用し、コストを抑えながら緑豊かな美しい街並みを実現しています。また、住宅や外構についても、建設ガイドラインを定め、住民の皆さんの協力により美しい街並みを形成しています。



【第3期新規分譲開始】

第3期住宅地(15戸)新規分譲を平成18年12月より行う予定です。「桜の郷」はひとにやさしいまちとして、ここに暮らす方々とともに成長しています。着々と進むまちづくりを是非現地を訪れて実感して下さい。

【問い合わせ先】

茨城県保健福祉部高齢福祉課
桜の郷整備推進室

TEL 029 301 3317

(現地販売センター)

年中無休 営業時間 10:00～16:00

フリーダイヤル 0120-468-390

<http://www.pref.ibaraki.jp/sakuranosato/>